

製品安全データシート

整理番号 tsukumi-1
作成 2017年4月

1. 製品及び会社情報

製品名 酸化カルシウム(生石灰)
会社名 全国農業協同組合連合会 肥料農薬部
住所 〒100-6832 東京都千代田区大手町1-3-1 JAビル33F
TEL 03-6271-8285
FAX 03-5218-2536
E-mail zz_hiyaku-gizyutsu@zennoh.or.jp

2. 危険有害性の要約

-参考資料-

国際化学物質安全性カード(ICSC)-日本語版-
<http://www.nihs.go.jp/ICSC/>
ICSC番号:0409

GHS分類

物理化学的危険性

火薬類	分類対象外
可燃性/引火性ガス	分類対象外
可燃性/引火性エアゾール	分類対象外
支燃性/酸化性ガス類	分類対象外
高压ガス	分類対象外
引火性液体	分類対象外
可燃性固体	区分外
自己反応性物質および混合物	分類対象外
自然発火性液体	分類対象外
自然発火性固体	区分外
自己発熱性物質および混合物	区分外
水と接触して可燃性/引火性ガスを発生する物質および混合物	区分外
酸化性液体	分類対象外
酸化性固体	分類できない
有機過酸化物	分類対象外
金属腐食性物質	分類できない

健康に対する有害性

急性毒性(経口)	区分5
急性毒性(経皮)	分類できない
急性毒性(吸入:ガス)	分類対象外
急性毒性(吸入:蒸気)	分類できない
急性毒性(吸入:粉じん、ミスト)	分類できない
皮膚腐食性/刺激性	区分1C
目に対する重篤な損傷性/眼刺激性	区分1
呼吸器感作性又は皮膚感作性	呼吸器感作性:分類できない 皮膚感作性:区分外

環境

生殖細胞変異原性	分類できない
発がん性	分類できない
生殖毒性	分類できない
標的臓器/全身毒性(単回暴露)	区分1(呼吸器系)、区分2(全身毒性、消化器)
標的臓器/全身毒性(反復暴露)	区分1(呼吸器系)
吸引力呼吸器有害性	区分1

環境に対する有毒性
水性環境有害性(急性)
水性環境有害性(慢性)

区分外
区分外

ラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語

警告、危険

危険有害性情報

飲み込むと有害のおそれ(経口)
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷
重篤な眼の損傷
臓器(呼吸器系)の障害、臓器(全身毒性、消化器)の
障害のおそれ
長期または反復暴露による臓器(呼吸器系)の障害
飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ

注意書き
安全対策

この製品を取り扱う作業中は、飲食・喫煙をしない。
保護手袋、保護衣を着用すること。
保護眼鏡、保護面を着用すること。
保護マスクを着用すること。
粉じんを吸引しないこと。
取り扱い後はよく手を洗うこと。

救急措置

飲み込んだ場合、口をすすぎ、無理に吐かせないこと。
吸入した場合、空気の新鮮な場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で
休息させること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを
容易に外せる場合には外して洗うこと。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹸で洗うこと。
衣類にかかった場合、直ちに全ての汚染された衣類を脱ぎ、
取り除くこと。また多量の水かシャワーで皮膚を洗い流すこと。
汚染された保護衣を再使用する場合には洗濯すること。
暴露又はその懸念がある場合、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。
気分が悪い時には、医師の診断、手当てを受けること。
吸入した場合、直ちに医師の診断、手当てを受けること。

保管

湿気、直射日光を避け、水と接触しないよう施錠して保管すること。
強酸、有機物、食品や飼料から離しておくこと。

廃棄

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物
処理業者に業務委託すること

3. 組成及び成分情報

化学物質・
混合物の区別
化学名
含有量
CAS番号
化審法公示番号

化学物質

酸化カルシウム(化学式:CaO)
92%以上
1305-78-8
1-189

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を新鮮な空気のある場所に移動し、呼吸しやすい態勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	気分が悪い時には、直ちに医師の診断、手当てを受けること。 皮膚への接触面積を最小限とするため、付着物を広げないよう取り除くこと。 衣類にかかった場合、直ちに全ての汚染された衣類を脱ぎ、取り除くこと。また多量の水かシャワーで皮膚を洗い流すこと。 直ちに医師に連絡すること。
目に入った場合	直ちに数分間多量の水で洗い流すこと。コンタクトレンズを容易に外せる場合は、外して洗うこと。 直ちに医師に連絡すること。
誤飲の場合	速やかに口をすすぎ、直ちに医師の診断、手当てを受けること。 何も飲ませないこと。吐かせないこと。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入：灼熱感、咳、息切れ、咽頭痛 皮膚：皮膚の乾燥、発赤、皮膚熱傷、灼熱感、痛み 眼：発赤、痛み、かすみ眼、重度の熱傷 経口摂取：灼熱感、腹痛、胃痙攣、嘔吐、下痢
医師に対する特別注意事項	安静と医学的経過観察が不可欠。 眼の中で水分やたんぱく質と反応して生成した酸化カルシウムの塊は水洗浄で除去するのは困難。医師の手で除去が必要。
5. 火災時の措置	
消火剤	小火災：二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂、耐アルコール性泡消火剤。 大火災：散水、噴霧水、耐アルコール性泡消火剤。
使ってはならない消火剤特有の危険有害性	棒状注水 火災によって刺激性、毒性、又は腐食性のガス及びヒュームを発生するおそれがある。 不燃性であり、それ自身は燃えないが、加熱されると分解して腐食性又は毒性の煙霧を発生するおそれがある。 加熱あるいは水の混入により容器が爆発するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 少量の場合は、乾燥砂等で被覆し、窒息消火する。 容器内に水を入れてはいけない。
消火を行う者の保護	消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め、適切な化学用保護衣を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置	直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。 作業者は適切な保護具（「8. ばく露防止及び保護措置」の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や粉じん、ミストの吸入を避ける。 風上に留まる。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項及び回収、中和について	河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。 こぼれた物質を乾燥容器内に掃き入れる。
封じ込め及び浄化方法・機材	危険でなければ漏れを止める。 粉じんの発生、拡散を防ぐ。
二次災害の防止策	すべての発火源や可燃性物質を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	
技術的対策	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い、保護具を着用する。
局所排気・全体換気	「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の局所排気、全体換気を行う。

安全取扱い注意事項	<p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 屋外又は換気の良い区域でのみ使用すること。 粉じんが発生しないように注意して取扱う。 接触、吸入又は飲み込まないこと。 眼、皮膚に付けないこと。 眼に入れないこと。 粉じん、ミストを吸入しない。 取扱い後はよく手を洗うこと。</p>
<p>接触回避 保管 技術的対策</p> <p>混触危険物質 保管条件</p> <p>容器包装材料</p>	<p>「10. 安定性及び反応性」を参照。</p> <p>保管場所は壁、柱、床を耐火構造とし、かつ、はりを不燃材料で作ること。 保管場所の床は、床面に水が浸入し、又は浸透しない構造とすること。 保管場所には危険物を貯蔵し、又は取り扱うために必要な採光、照明及び換気の設備を設ける。</p> <p>「10. 安定性及び反応性」を参照。 容器を密閉し、涼しい乾燥した場所に保管すること。 熱、火花、裸火のような着火源から離して保管すること。－禁煙。 混触危険物質から離して保管する。 施錠して保管すること。</p> <p>国連輸送法規で規定されている容器を使用する。 特に使用を避ける物質はなし</p>
<p>8. 暴露防止及び保護措置</p> <p>管理濃度 許容濃度(暴露限界値、 日本産業衛生学会 (2007年版) ACGIH(2007年版) 設備対策</p> <p>保護具</p> <p>呼吸器の保護具 手の保護具</p> <p>眼の保護具</p> <p>皮膚及び身体の 保護具 衛生対策</p>	<p>設定されていない</p> <p>生物学的暴露指標 設定されていない</p> <p>TLV-TWA 2mg/m³</p> <p>気中濃度を推奨された許容濃度以下に保つために、工程の密閉化、局所排気、その他の設備対策を使用する。 この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。</p> <p>適切な呼吸器保護具を着用すること。 保護手袋を着用すること。 ニトリルゴム及び塩ビは適切な保護材料ではない。 ネオプレンが推奨される。</p> <p>眼の保護具を着用すること。 (安全ゴーグル、顔面シールド等)</p> <p>顔面用の保護具、保護衣、安全靴等の保護具を着用すること。</p> <p>この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。 取扱い後はよく手を洗うこと。 防じんマスク、防じん眼鏡、手袋</p>
<p>9. 物理的及び化学的性質</p> <p>物理的状態 形状 色 臭い ph 融点 沸点 引火点 燃焼又は爆発範囲 蒸気圧 蒸気密度</p>	<p>安定 粉末、塊状 白色 無臭 アルカリ性(水溶液)</p> <p>2570°C (ICSCより) 2570°C (ICSCより)</p> <p>不燃性 データなし データなし データなし</p>

比重	3.3~3.4 (ICSCより)
溶解度	水と反応し、発熱して水酸化カルシウムとなる
n-オクタノール/水分配係数	データなし
自然発火温度	不燃性
分解温度	データなし
10. 安定性及び反応性	
安定性	吸湿性が高く、空気中の水、二酸化炭素を吸収して水酸化カルシウム、炭酸カルシウムを生成する。 大量堆積の場合は、湿気により300°C位に上昇する。
危険有害反応性可能性	水と反応して、可燃物を発火させるのに十分な熱を発生する。 酸、ハロゲン、金属と激しく反応する。 硫酸、五フッ化水素と接すると発火する。 塩酸と接すると発熱する。
避けるべき条件	水、酸類、可燃物、金属類との接触。
混触危険物質	酸類、ハロゲン類、金属類。
危険有害な分解生成物	なし
11. 有害性情報	
急性毒性	障害のおそれ ラットのデータはなく、マウスLD50:3059mg/kg (RTECS (2004))のデータより区分5に分類した。
皮膚腐食性・刺激性	重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分1C) 皮膚に対して腐食性(ICSC (1997))、湿った皮膚に対して強い刺激性(very irritating)(ACGIH (2001))、及び国連分類クラス8、IIIであるため区分1Cに分類した。
眼に対する重篤な損傷・刺激性	重篤な眼の損傷(区分1) 眼に対して腐食性(ICSC (1997))の記載と、皮膚腐食/刺激性のGHS分類が区分1Cであることより、区分1に分類した。
呼吸器感受性又は皮膚感受性	呼吸器感受性: データがなく分類できない。 皮膚感受性: ヒトの試験で陰性(IUCLID (2000))の記載より区分外とした
生殖細胞変異原性	酵母菌による有糸分裂組み換え試験で陰性、エームズ試験で陰性(IUCLID (2000))の記載があるが、in vivoのデータはなく、分類できないとした。
発がん性 生殖毒性	データがなく、IARC等の評価機関の報告もなく分類できないとした。 ラットとマウスの1世代試験で影響なし(IUCLID (2000))の記載があるが、データ不足のため分類できないとした。
特定標的臓器・全身毒性—単回暴露	なし 臓器(呼吸器系)の障害(区分1)、臓器(全身毒性、消化器)の障害のおそれ(区分2) 粉塵吸入は気道の炎症(ACGIH (2001))、肺炎(HSDB (2005))を起こすとの記載より区分1(呼吸器系)に、誤飲すると脈が速く、弱くなり、呼吸が速く、浅くなり、体温が下がり、声門腫により呼吸をしにくくなりショック状態になる。食道、胃の穿孔も生じる(HSDB (2005))の記載があるが、Priority2であるため区分2(全身毒性、消化器)に分類した。
特定標的臓器・全身毒性—反復暴露	長期または反復暴露による臓器(呼吸器系)の障害(区分1) 鼻中隔の潰瘍、穿孔(ACGIH (2001))、(ICSC (1997))の記載より区分1(呼吸器系)に分類した。
吸引性呼吸器有害性	飲み込み、気道に侵入すると生命に危険のおそれ(区分1) ヒトで吸引性肺炎が報告された(HSDB (2005))の記載より区分1に分類した。
12. 環境影響情報	
生態毒性	
水生環境有害性	魚類(コイ)の96時間LC50=1070mg/L (IUCLID、2000)から、

(急性) 水生環境有害性 (慢性) 残留性・分解性 生体蓄積性 土壤中の移動性	区分外とした。 難水溶性でなく(水溶解度=1200mg/L(HSDB、2004))、 急性毒性が低いことから、区分外とした。 データなし データなし データなし
13. 廃棄上の注意 残余廃棄物 中和法 汚染容器及び包装	廃棄においては、関連法規ならびに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは 地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託して 処理する。 発熱のおそれがあるので大量の水中に少しずつ投じ、消石灰とし、 これを希硫酸で中和して処理する。 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規ならびに地方 自治体の基準に従って適切な処分を行う。 空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。
14. 輸送上の注意 国際規制 海上規制情報 航空規制情報 UNNo.: ProperShippingName Class: SubRisk: PackingGroup: 国内規制 陸上規制情報 海上規制情報 航空規制情報 国連番号: 品名: クラス: 副次危険 容器等級: 特別の安全対策	非危険物 ICAO/IATAの規定に従う。 1910 Calucium oxide 8 III 特段の規制はない。 非危険物 航空法の規定に従う。 1910 酸化カルシウム 8 III 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れの ないように積み込み、荷崩れの防止を確実にを行う。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。 重量物を上積みしない。
15. 適用法令 労働安全衛生法 消防法 航空法	名称等を通知すべき有害物 (法第57条の2、施行令第18条の2別表第9) (政令番号 第190号) 貯蔵等の届出を要する物質 (法第9条の3・危険物令第1条の10) 腐食性物質 (施行規則第194条危険物告示別表第1)
16. その他の情報	記載内容のうち、含有量、物理化学的性質等の値は保証値ではありません。 本記載内容については、発行段階での資料、情報に基づいて作成されており、新しい 知見によって改訂されることがあります。 また注意事項は通常的な取扱いを対象としたもので、特殊な取扱いの場合には 充分なご配慮をお願いします。 -参考資料- 独立行政法人製品評価技術基盤機構

<http://www.safe.nite.go.jp/>

国際化学物質安全性カード(ICSC)－日本語版－

<http://www.nihs.go.jp/ICSC/>

本SDSは、下記戸高工業社の情報を元に作成しました。該当物質については、下記にお問い合わせください。

会社名

株式会社戸高鉱業社

住所

大分県津久見市合ノ元町6番7号

TEL

0972-82-6111(代表)

0972-82-3050(営業部)

販 売 :



津久見ドロマイト工業株式会社

大分県臼杵市野津町大字落谷2824番地

TEL 0974-32-2118 e-mail info@dolomite.jp